



歌浦っ子だより (学校だより)

「やさしい心 夢かがやく 歌小の子ども育成」

平成30年 9月21日 文責:校長 内野義和

職場体験学習

9月11日(火)から13日(木)まで、鹿町中学校から本校へ職場体験学習として、2年生の江口幸汰さん、青嶋千尋さんが来ました。

2人は鹿町小学校卒業で、本校には知り合いもいないので、はじめは緊張していました。鹿町中学校の方針で、母校ではない小学校へ行くそうです。確かに先生とも子どもとも慣れたところでは、本当の意味の職場体験にはならないかもしれません。緊張の中で、人とコミュニケーションをとっていくことが、これからは大切になってきます。

江口さんは、将来教育関係の職業につきたいので、本校での職場体験を選んだそうです。一方、青嶋さんは、コミュニケーション力をつけたいので、本校での職場体験を選んだそうです。

各学年に入り、子どもたちと一緒に遊んだり、授業の際に先生方のお手伝いをしたりしていました。また、12日(水)の朝は、民生委員さんと一緒に校門であいさつ運動もしてくれました。

最後の先生方へのあいさつでは、とてもよい体験ができ、中学校でも体験したことを生かしたい、将来の夢が少し見えてきたと話しました。

すばらしい体験学習となったのではないかと思います。

本校の子どもたちも中学生と触れ合うことができ、よかったです。



これからの時代を生きる2～今後必要とされる力～

文部科学省は、平成29年3月31日に小学校学習指導要領の改訂を行いました。

学習指導要領とは、「全国のどこの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けるようにするため、学校教育法等に基づき、各学校で教育課程(カリキュラム)を編成する際の基準を定めた」(文部科学省)ものです。

改訂に伴って、平成32年度から全面的に実施することになりますが、平成30年度から一部を移行措置として先行して実施しています。

ご存知のように、道徳が特別の教科になったり、3年生・4年生から外国語活動を年間15時間行ったり、5年生・6年生で外国語科として50時間行ったりしています。

さて、この改訂の背景には何があるのでしょうか。文部科学省によれば次のように書かれています。(内野が箇条書きで要約)

- ①今の子供たちが成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。
- ②生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会や雇用は大きく変わり、予測が困難な時代となっている。
- ③変化の1つとして、人口知能(AI)の飛躍的な進化が挙げられる。人口知能が自ら知識を理解し、思考し始めているとも言われ、雇用の在り方や学校において獲得する知識の意味にも大きな変化をもたらすのではないかとの予測も示されている。

これから学校が考えなければならないのは、「学校において獲得する知識の意味」です。文部科学省は生きる力をつけなければならないと言います。その具体は、次のように書かれています。

- ア「何を理解しているか、何ができるか」(生きて働く「知識・技能」の習得)
- イ「理解していること・できることをどう使うか」(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)
- ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)

つまり、「できた」「わかった」で終わるだけではだめだということです。獲得した知識を使わなければなりません。生かしていかなければなりません。難しい世の中にあります。しかし時代はその力を今後必要としてきます。

次回は、このことも踏まえ、本校ではどのような力をつけようとしているか、4月に実施した市・県・全国の学力テストの結果と関連して説明することになります。

